

海外のニュース

アメリカ及びカナダ東北部におけるBeech bark diseaseのまん延

亜高山地帯の代表的な落葉高木ブナ (*Fagus* spp.) にはいくつかの病害が知られているが、アメリカ及びカナダ東北部では *Nectoria* 属菌 (子のう菌の一種) による Beech bark disease が、徐々にその発生地域を拡大している、その概要を紹介したい。

本病の被害は、ヨーロッパブナ (*F. sylvatica*) やアメリカブナ (*F. grandifolia*) に見られ、病原菌 [*N. coccinea* var. *faginata* (Ncf 菌)、*N. gal-ligena* (Ng 菌)] の伝搬には媒介昆虫 (beech scale, *Cryptococcus fagisuga*, カタカイガラムシ科の一種) の移動が深く関わり、[ブナの樹+媒介昆虫+*Nectria* spp. → 本病] の図式が北米や欧州では一般的に知られている。欧州における本病は風土病的特徴が強いが、北米ではさらに伝染病的特徴も示している。これは媒介昆虫の分布地域の拡大が原因となっている。本虫は、1911年カナダ、

ノバスコシア州ベッドフォードでの初報告以来、アメリカにも分布地域を広げ、バージニア州 (1983) やオハイオ州 (1984) でも発見され、1993年にはノースキャロライナ州とテネシー州で病原菌とともに発見されている。この媒介昆虫の移動は風や渡り鳥によるものと考えられているが、観光地 (ウェスト・バージニア州) や植物園 (オハイオ州) での発生原因は人為的なものと考えられる。

本病の病原菌のひとつである Ng 菌は、在来種で北米地域以外の欧州や日本等にも広く分布している。もう一方の Ncf 菌は、その由来は確認されていないが外来種と考えられており、病原性も強い。本病の分布地域では、Ng 菌から Ncf 菌への変遷が見られる。

Houston (1994) Ann. Rev. Phytopathol. 32 : 75-87

Beech bark diseaseの媒介昆虫のアメリカ及びカナダにおける分布の拡大

